

奥野滋子(おくの・しげこ)

経歴

1960年、富山県生まれ。緩和ケア医。高校3年時に形成再建手術によって社会復帰を果たした患者に出会い、形成外科医に憧れて医師を志す。1985年金沢医科大学卒業後同大学大学院(形成再建外科学)に進学。多くのがん、熱傷患者の耐え難い苦痛を目の当たりにし、痛み治療を学ぶために2年で中退、1987年順天堂大学医学部麻酔科学講座に入局。

在宅療養中の高齢女性から「病気や障害があっても家にいることで病気は生活の一部になる」と教えられ、末期がん患者に対する質の高い緩和ケアの必要性を確信する。2000年から緩和ケア医に転向。社会福祉法人日本医療伝道会衣笠病院ホスピス、神奈川県立がんセンター、順天堂大学医学部附属順天堂医院緩和ケアセンターを経て、現在特定医療法人社団若林会湘南中央病院在宅診療部長として、教育と臨床の両面で緩和ケアに携わっている。また死について学ぶ必要性を感じ、2008年東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科修士課程(宗教学)に進学。

「ひとりになっても自宅で最後まで生きる」を目標に掲げ、地域包括ケアの促進に取り組んでいる。

資格

日本麻酔科学会指導医
日本ペインクリニック学会専門医
日本緩和医療学会暫定指導医
医学博士
人間科学修士
介護支援専門員
順天堂大学医学部客員准教授。

著書

共著

『ペインクリニックシヤンが関わる緩和医療』
『よくわかるがん緩和医療－患者と医療者の必携エッセンス』
『死生学年報 2010 死生観を学ぶ』
『死生学年報 2011 作品にみる生と死』

単著

『一人で死ぬのだって大丈夫』朝日新聞社 2014